2025 年
全日本大人柔道フェスタ親善試合
報告書



作成者
全日本大人柔道フェスタ親善試合実行委員会
実行委員長 佐藤雄哉

1. 開催概要

・日時：2025 年 1 月 26 日（日）

・会場：国士舘大学多摩キャンパス柔道場

・参加者：学生から社会人まで幅広く、合計 43 名が出場

・試合数：全 44 試合を安全に実施

本大会は「柔道を通じて、心身の健康増進や他者との交流を深める」 ことを目的に開催されました。加えて本大会は、長年柔道に取り組んできた方々よりも、大人から柔道を始めた方々を中心とした形式を採用しています。



［写真：
参加者全員の集合写真］

---

2. 大会の特色と成果

(1) 独自ルールによる安全・安心な試合運営

「組み合った状態から開始する」独自ルールを採用し、怪我防止と一本勝ちの増加を実現。一本勝ちも多数見られ、観客も大きく盛り上がりました。





［写真：試合風景(左)・組み合った状態で“はじめ”の合図を待つ様子（右)］

(2) 交流と一体感

安全性を踏まえつつ、多様な世代が一堂に会して鎬を削りました。運営による安全判断と、参加者の許諾をいただいた上で、大学生と 40 代の社会人が試合をする組み合わせも実施しました。また、応援エリアを試合場のすぐ傍に設けたことで、会場全体が一体となった盛り上がりを見せています。




［写真：試合開始前に懇談する参加者と実行委員長の佐藤（左）
・試合を観戦、応援する参加者（右）］

(3) ご支援いただいた企業様との連携

ご支援いただいたヨシダグループの代表 吉田勝様によるご挨拶。吉田様には賞状の授与も引き受けていただきました。また優秀試合賞の受賞者には、商品をご提供いただいた「焼肉もぐり」様からお肉が送られました。




［写真：ヨシダグループ代表 吉田様のご挨拶（左）
・吉田様からの優秀試合賞受賞者への賞状授与（右）］

(4) 交流イベントの開催

全試合終了後は司会の進行のもと、さとうせいたくん（2 歳）とのじゃんけん大会が行われ、会場は笑いと拍手に包まれました。また、じゃんけん大会を勝ち抜いた参加者にも景品が送られました。




［写真：じゃんけん大会（左）・せいたくんによる景品授与（右）］

(5) その他の大会の様子




［写真：開会式（左）・参加者全体での準備運動の様子（右）］





［写真：大会運営の様子（左）・大会終了後の女子参加者（右）］

3. 大会の記録

(1) 大会実施方法

本大会は以下のカテゴリー区分の中、体格や経験年数、段位などを加味した３～4 名のグループを作り、総当たり方式で優勝者を決定しました。また、C 区分のみ、三位までを表彰の対象としております。

・カテゴリーA（試合の雰囲気を楽しみたい人）/ 0 人

・カテゴリーB（大人から柔道を始めた男性）/ 25 人

・カテゴリーC（子どもの頃から柔道を続けている男性）/5 人

・カテゴリーD（大人から柔道を始めた女性）/ 13 名

B1 優勝 江幡玲久（明星大）

B2 優勝 占部宏（津屋埼武道会）

B3 優勝 邱景昭（明星大）

B4 優勝 羽切良太（国士舘大鶴柔）

B5 優勝 稲野辺海（国士舘大鶴柔）

B6 優勝 長妻晴来（新座三中）

B7 優勝 早川侑希（明星大）

C 優勝 盛眞太朗（明星大）

C 準優勝 田島柚希（国士舘大鶴柔）

C 第三位 大澤晴翔（明星大）

D1 優勝 建静希（日女体大）

D2 優勝 榎本愛菜（日女体大）

D3 優勝 中村さくら（日女体大）

D4 優勝 前田苺菜（日女体大）

(2) 最優秀試合賞・優秀試合賞

スポンサーの吉田様と運営スタッフの投票・推薦により選出された以下の選手に、最優秀試合賞・優秀試合賞が授与されました。

・最優秀試合賞：B7 早川侑希（明星大）― 川西夢大（国士舘大授業）

・優秀試合賞（１）：D2 野口実子（明星大）― 角田梨紗（国士舘授業）

・優秀試合賞（２）：B1 中村親治（中島道場）― 江幡玲久（明星大）

4. 結び

本大会の成功は、参加者の皆さま、また協力していただいた企業様のご支援なくしては成し得ませんでした。心より感謝申し上げます。

さて、盛況のまま幕を閉じた「2025 年 全日本大人柔道フェスタ親善試合」は、2026 年より「柔道フェスタ in 国士舘」として新たに開催されます。これまで実行委員会を中心に運営してきた本大会は、今後、国士舘大学体育学部佐藤研究室が主体となり、大学と地域が一体となり育てていく恒例行事として発展させていきます。なお、前大会に引き続き私・佐藤が中心となる体制に変わりはなく、これまで培ったネットワークと経験を活かしながら、さらなる継続と発展を目指して尽力して参ります。

全日本大人柔道フェスタ 親善試合実行委員会

実行委員長 佐藤雄哉

5. 次回大会に向けて

次回大会では、参加者数のさらなる拡大を目指しつつ、柔道を通じた「健康・交流・地域貢献」を推進する場として一層の充実を図って参ります。特に、初心者から経験者まで誰もが安心して参加できる仕組みを整えることで、より多くの方々に柔道の魅力を届けていきます。佐藤研究室一同、これからも皆さまと共に柔道の輪を広げていけることを願っております。

国士舘大学体育学部武道学科

佐藤研究室一同